

## 日本と世界の異文化理解について

2019年3月25日修了式

皆さんの進級にあたり一言お話をします。

最近のニュースで国連機関の団体が、世界幸福度ランキングを公開しました。

これは、各国の国民に「どれくらい幸せと感じているか」を、評価してもらった調査に加えて、GDP、平均余命、寛大さ、社会的支援、自由度、腐敗度といった要素を元に、10段階の数字で幸福度を計るというものです。

日本は、156カ国中で58位だそうです。調査に携わったことがある世界平和研究所の研究者によると、「あくまで主観の調査なので文化の違いが影響する」といっています。

具体的には言えば、2018年度では、13位のコスタリカは「生まれたからには幸せであるべき。」との考えから、ほとんどの人が「10」と即答する傾向があるそうです。また、6位のオランダは「7」「8」と答える人が多く、「不幸せ」に対して、前向きに価値を置いて考えていることが、背景にあるといわれています。

58位の日本で、多くの方が答えるというのが「5」。ある研究者は「日本は無常（すべて存在するものは絶えず移り変わっていると観察する人生観や美意識）・儚さ（はかなさ）を長い歴史の中で染み込ませている民族である。

『禍福（かふく）は糾える（あぎなえる）縄の如し』（《「史記」南越伝から》幸福と不幸は、より合わせた縄のように、交互にやってくるということ。）という言葉があるように、人生は幸福と不幸が入り混じるものだという、概念（頭の中のイメージ）があるために『5』と。。。」、回答する人が多いのではと指摘しました。

人によっては主観の問題だから、個人の問題だから気にとめることはない。ということも場合によってはあるかもしれません。しかしそれは、人間の尊厳や人格とは無縁の場合です。

皆さんなら、どのように考えますか？

昨年11月に神奈川県内の高校で、国際理解教育の講演ありました。同じ人間同士が民族の対立により、今から25年前にアフリカのルワンダという国で、約100日間に数えきれないほどの敵対する部族が殺害されました。

正確な犠牲者数は明らかになっていませんが、およそ50万人から100万人の間、すなわちルワンダ全国民の10%から20%の間と推測されています。

その事実を伝えるために、その内戦で生き残って、義足を作り続けるルワンダ人のNGOの方が、今回の講師を務めました。

その講演では、生徒達にとってネットなどの資料では、学びきれない事実が、話の中にはありました。

同じルワンダ国民なのに互いを受け入れず敵対し、多くの子どもや女性の命が犠牲になったことは、高校生達に、命の大切さだけでなく、異文化への理解の大切さを、学ばせてくれるものになりました。

結びになりますが、この話のなかで、国際問題になっている「異文化理解」という考え方は、本校だけで無く、これからの多様性・平等性が問われる未来社会のなかで、大切な拠り所になっていくと思います。

今のクラスから、離れたくないと思っている人も、いらっしゃるでしょうが、次のステップのために、しっかりリセットし、4月からの新たな一歩を進めてください。